

令和元年度事業報告

自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日

I. 展覧会

1. 第48回「日本の書展」直轄展

令和2年に入ってからの新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大に伴い、日本では、4月7日から5月6日まで7都府県に対して緊急事態宣言が発令、4月16日には宣言が全都道府県に拡大、5月31日まで宣言延長になったが、5月14日に39県が解除、5月21日に関西3府県が解除、5月25日には全面解除となった。

直轄4展の展覧会の開催、開催披露祝賀会の実施、会期中のギャラリートークの実施について、展覧会開催の1カ月前まで重ねて検討審議を行った。代表理事、業務執行理事、理事による審議の結果、緊急事態宣言中の「関西展（5月2日から開催）」および宣言解除直後の「中部展（6月3日から開催）」は開催中止となった。また、開催披露祝賀会、ギャラリートークは直轄4展とも中止とした。

「東京展」「九州展」は最大限の感染予防対策を行った上で開催した。特に「東京展」は国立新美術館再開の1団体目として開催することができ、また、感染者が発生することなく、無事に終了することができた。中止や延期が余儀なくされている様々な書道展、ひいては文化芸術活動再開の先駆けとして多方面から評価をいただいた。

48回直轄4展の出品者総数は3,665名で、47回展の3,678名に比べて13名減少。3,665点のうち、関西展（招待・秀抜選）の982点、中部展（招待・秀抜選）の627点、計1,609点は残念ながら展示をすることができなかった。関西展委嘱と中部展委嘱は、東京展でのみ展示をすることができた。

展示ができなかった関西展招待および秀抜選、中部展招待および秀抜選出品者からの協賛費の取り扱いについては、開催中止までに発生した経費を差し引き、前回47回展支出額を基に算出して、納入された協賛費の約半額、招待には25,000円（消費税込み）、秀抜選には15,000円（消費税込み）が現金書留によって返金された。

入場者数は東京展4,132名（前回8,597名）、九州展1,425名（前回1,500名）。政府から6月19日までの都道府県をまたぐ移動の自粛要請が出され、東京展は会期のほとんどがその要請期間と重なっており、例年の半分の入場者数にとどまった。九州展は、都道府県をまたぐ移動の自粛要請の解除後だったためか、入場者数の影響はほとんど受けなかった。

例年行っている図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品ブロマイド2枚ずつの贈呈は、緊急事態宣言以前に写真撮影や制作が終了していたため、開催中止となった関西展・中部展を含む全出品者に送付することができた。

(1) 関西展 ⇒ 開催中止

会期 令和2年5月2日（土）～5月4日（月・祝）

会場 マイドームおおさか（1、2階展示ホール A～D）

主催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞社

後援 文化庁

協賛 （公社）日本書芸院

開催披露祝賀会 令和2年5月2日（土）12：30～

シティプラザ大阪 2階 「旬」

ギャラリートーク 令和2年5月3日（日・祝）14：00～

マイドームおおさか（1階展示ホール）

関西展は、巨匠16点、代表103点、委嘱44点、招待466点、秀抜選516点、合計1,145点を展示する予定だった。

(参考：前回47回展の出品総数1,111点、入場者数1,972名)

(2)中部展 ⇒ 開催中止

会期 令和2年6月3日（水）～6月7日（日）
会場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階 A～J）
主催 (公財)全国書美術振興会 中日新聞社
後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送
協賛 (公社)中部日本書道会
開催披露祝賀会 令和2年6月3日（水）18:00～
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
ギャラリートーク 令和2年6月6日（土）14:00～
愛知県美術館ギャラリー

中部展は、巨匠16点、代表103点、委嘱18点、招待188点、秀抜選439点、合計764点を展示する予定だった。

(参考：前回47回展の出品総数789点、入場者数2,853名)

(3)東京展

会期 令和2年6月11日（木）～6月21日（日） 6月16日（火）は休館日
会場 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁
開催披露祝賀会 ⇒ 開催中止 令和2年6月11日（木）12:00～
ホテルオークラ東京（プレステージタワー）1階 「平安の間」
ギャラリートーク ⇒ 開催中止 ①令和2年6月13日（土）14:00～
国立新美術館 展示室
②令和2年6月20日（土）14:00～
国立新美術館 展示室

東京展の出品数は、巨匠16点、代表103点、委嘱47点、招待683点、秀抜選789点、東京展合計1,638点、他展の委嘱（関西展委嘱44点・中部展委嘱18点・九州展委嘱11点）も加わり総展示数1,711点、会期中の入場者数は4,132名だった。

(参考：前回47回展の出品総数1,710点、入場者数は8,597名)

国立新美術館では、感染拡大防止のために各入口でサーモグラフィーによる体温測定などの対策をとっていたが、事務局でも消毒液の設置、ガラスケースやソファーの定期的な消毒、マスク着用の徹底、共有物を介しての感染を予防するための作品検索台帳や図録サンプルの壁面掲示、受付シールドの設置など、最大限の感染症予防対策を行って対応した。今年は外出自粛傾向にある中での開催だったために、出品者や公募臨書関連の来場者は少なく、また外国人来場者も激減したが、感染者が発生することもなく、無事に終了することができた。

(4)九州展

会期 令和2年6月25日（木）～6月30日（火）
会場 福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー・8階交流ギャラリー）
主催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
後援 文化庁
開催披露祝賀会 ⇒ 開催中止 令和2年6月25日（木）12:30～
ホテルオークラ福岡 3階 「オーベルーム」

ギャラリートーク ⇒ **開催中止** 令和2年6月27日（土）14：00～
福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー）

九州展の出品数は、巨匠16点、代表103点、委嘱11点、招待143点、秀抜選202点、合計475点、会期中の入場者数は1,425名だった。

（参考：前回47回展の出品総数は480点、入場者数は1,500名）

東京展同様、会場内の感染予防対策を行い、感染者が発生することもなく、無事に終了することができた。

2. 第47回および第48回「日本の書展」巡回展

会期 第47回巡回展 令和元年7月～令和2年4月
第48回巡回展 令和2年7月～令和3年4月

会場 第47、48回展とも地方8カ所で開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、第47回展は7カ所開催、1カ所中止、第48回展は現時点では4カ所が開催中止となっている。

主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社

後援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品（第47回展116点、第48回展119点）については、直轄展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方を巡回する。

開催中止が相次いだため、第47回の長野展を最後に今年度の巡回展は終了した。

第47回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

△	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	1.7.19～7.22	171
2	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	1.8.29～9.2	200
3	青森	青森市	東奥日報社	New's T0-0ビル3階催事場	1.9.6～9.9	267
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	1.10.3～10.8	579
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	1.10.10～10.15	491
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	2.2.19～2.23	193
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	2.2.27～3.3	217
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	2.4.11～4.16	開催中止

※白部分が令和元年度事業

第48回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

△	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	2.7.16～7.19	開催中止
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	2.8.28～8.31	開催中止
3	青森	青森市	東奥日報社	New's T0-0ビル3階催事場	2.9.4～9.7	開催中止
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	2.10.1～10.6	開催中止
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	2.10.14～10.19	450
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	3.2.17～2.21	—
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	3.3.4～3.9	—
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	3.4.10～4.15	—

※白部分が令和元年度事業

3. 第48回「日本の書展」東京展 公募臨書

会期 令和2年6月11日（木）～6月21日（日） 6月16日（火）は休館日

前期展示 令和2年6月11日（木）～6月15日（月）の5日間

後期展示 令和2年6月17日（水）～6月21日（日）の5日間

会場 国立新美術館（展示室1Dの一部 51～53室の3室）

主催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回9回目となる。出品点数は940点で、前回の975点より35点減ではあったが、900点台のほぼ安定した点数を保っている。

令和元年12月19日に、国立新美術館審査室で審査委員6名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は467点、入選率は49.7%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示、壁面展示は2段掛けとした。展示後、入選者には表装作品と共に入選證を送った。

第48回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示		机上展示		計
	たて	よこ	篆刻		
前期展示	182	50	2		234
後期展示	181	50	2		233
入選数合計	363	100	4		467

第48回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢字		かな		篆刻
	たて	よこ	たて	よこ	
	347	14	16	86	
	361		102		
入選数合計			467		4

II. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム（ワークショップ） ⇒ 開催中止

名称 筆もじにトライ！2020～オリジナルうちわを作ろう～

日時 令和2年8月18日（火）

Aコース 13：30～14：40

Bコース 15：40～16：50

令和2年8月19日（水）

Cコース 10：30～11：40

Dコース 13：30～14：40

Eコース 15：40～16：50

令和元年8月20日（木）

Fコース 10：30～11：40

Gコース 13：00～14：10

Hコース 14：50～16：00

場所 日本芸術院会館 講堂

参加費・材料費 無料

対象 3歳～小学校3年生までの子ども（保護者同伴）

定員 各コース32名（3日間で8コースを設定） 計256名

助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金助成活動より 78万7千円の助成（2019年は67万5千円の助成）
指導者 上籠鈍牛氏、芹澤翔華氏、畠田心珠氏、堀一惜氏、松浦龍坡氏、宮島翠雨氏
子どもゆめ基金の採択、助成は昨年に続き3回目となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもゆめ基金部に対し申請の取下げ手続きを行い、令和2年6月3日にイベント中止が承認された。

III. 日本の自然と書の心「日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～」

第5議題にて報告

IV. 書写・書道教育推進協議会

第6議題にて報告

V. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

第7議題にて報告

VI. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第48回「日本の書展」直轄展

- ①図録 4, 300部（前回47回展は4, 480部）
関西展・中部展の開催中止で制作数減。
現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。
巻末には、全展招待・秀抜選作家を含む全出品者名簿を掲載。
出品者には、1冊ずつ贈呈。
②出品者本人の作品プロマイド 7, 618枚
展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー写真 非売品。
各出品者には、出品者本人のプロマイドを2枚ずつ贈呈。
(出品者3, 649名×2枚ずつ、現代書壇巨匠16名のみ×20枚ずつ)
③出品者名簿 関西展 12, 440枚
中部展 9, 830枚
東京展 19, 950枚
九州展 5, 270枚
④案内はがき 123, 400枚
⑤ポスター 570枚
⑥外国人向け展覧会概要リーフレット 100枚

(2) 第48回「日本の書展」巡回展

図録（直轄展と同図録） 900部

(3) 第48回「日本の書展」公募臨書

- ①入選者名簿 1, 650枚
②入選證 530枚

(4) 第49回「日本の書展」公募臨書

出品要項 17, 200枚

2. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム「筆もじにトライ！2020」の制作

応募チラシ 中止のため作成しなかった。

3. 機関誌「書美術」第37号

4, 260部 令和2年3月1日に発行

4. ホームページの更新

VII. 書美術功労者の顕彰

日本芸術院会員を受けられた黒田賢一常務理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上